

妊婦の冷え症はお産を長引かせる



中村幸代¹⁾

堀内成子²⁾

1) 横浜市立大学 2) 聖路加国際大学

緒言

▶ 日本の現状

合計特殊出生率 (厚生労働省, 2015)

1.46

女性一人あたりの分娩数が少ない
お産の経験は女性にとって貴重なライフイベント

ト

分娩期の重要性

①母児の安全

②産婦の満足度の高さ

緒言

➤ 妊娠時の冷え症がお産に及ぼす影響

異常分娩	発生率
早産（中村, 2012）	約3.4倍
前期破水（中村, 2012）	約1.7倍

➤ 冷え症の妊婦の割合

首都圏在住の妊婦の調査結果（中村, 2008） 67%

⇒しかし、周産期医療では、異常分娩への影響への問題意識は乏しい。

研究の目的

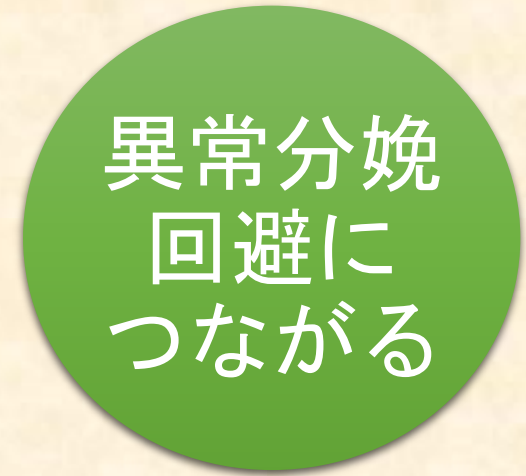


- ・ 冷え症である妊婦
- ・ 冷え症ではない妊婦



微弱陣痛
遷延分娩
発生率

- ・ 相違の分析
- ・ 因果効果推定



- ・ 分娩期の母児の安全
- ・ 産婦の満足度の高さ

研究の方法

研究デザイン

対照のある探索的記述研究

後向きコホート

研究フィールド

首都圏の総合病院
6箇所

各施設での診断基準・
手順ほぼ同様

研究対象

病院入院中の分娩後の
日本人女性

除外

- ・ 予定帝王切開分娩
- ・ 身体的・精神的に不安定な女性

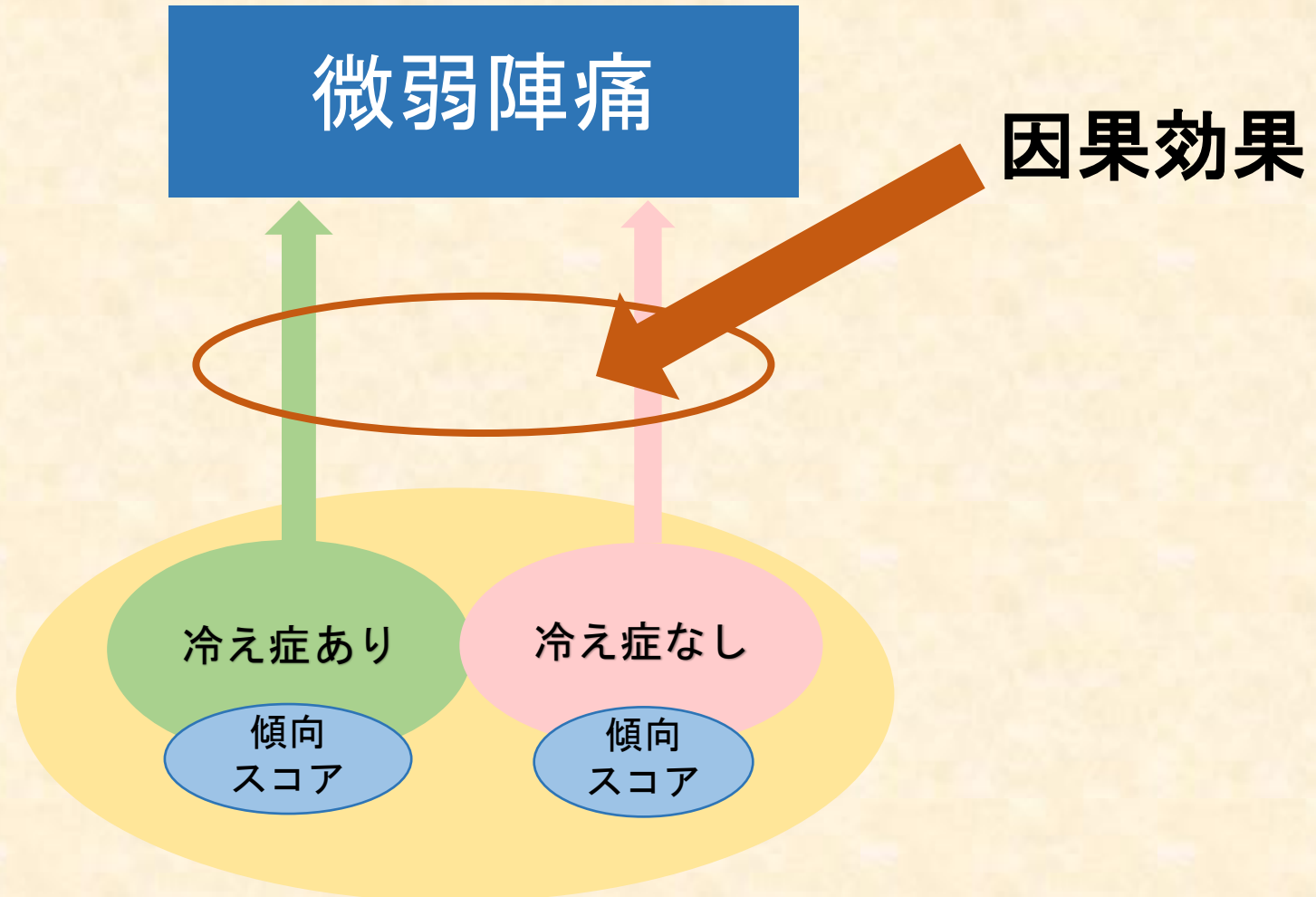
測定用具

質問紙調査

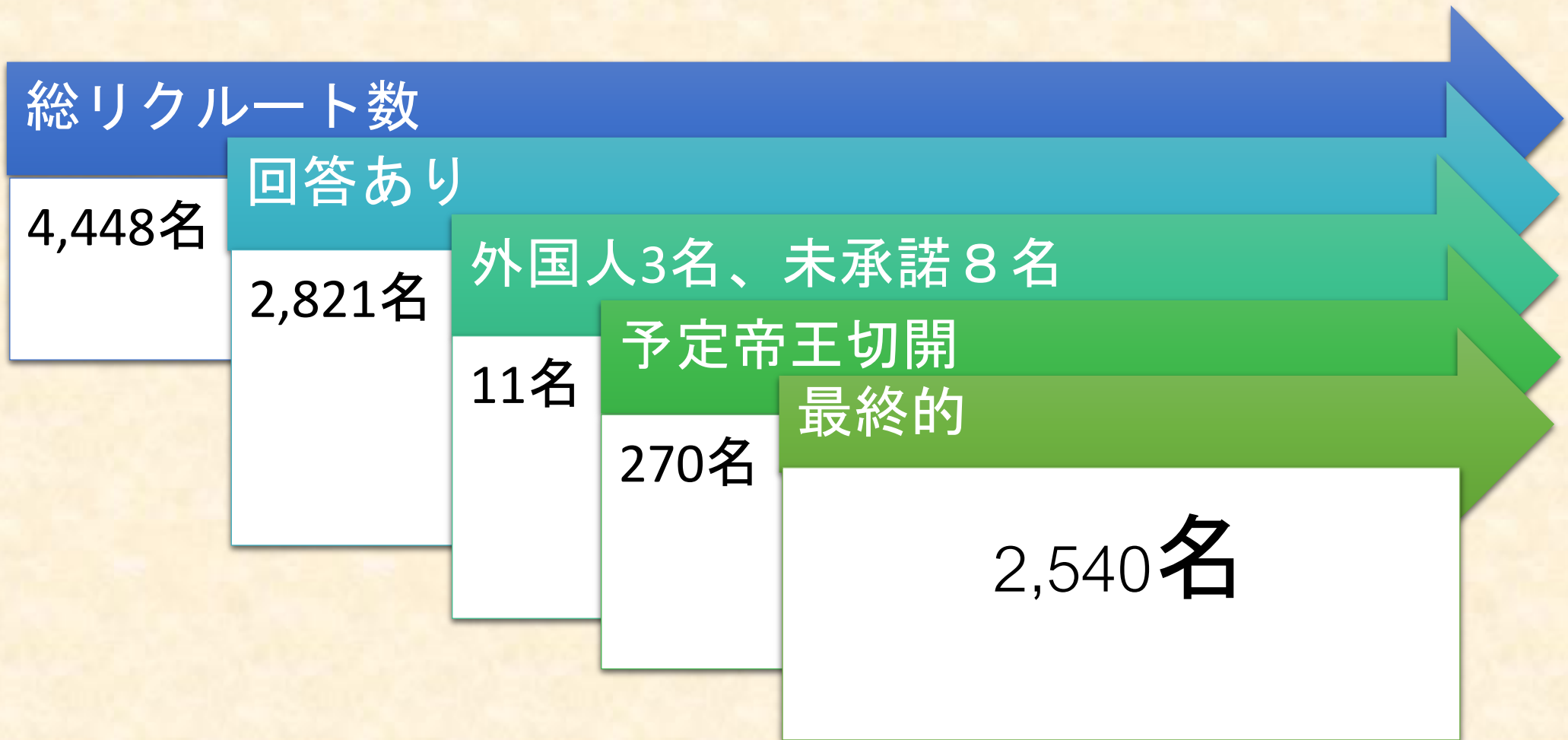
医療記録から
データ収集

分析方法

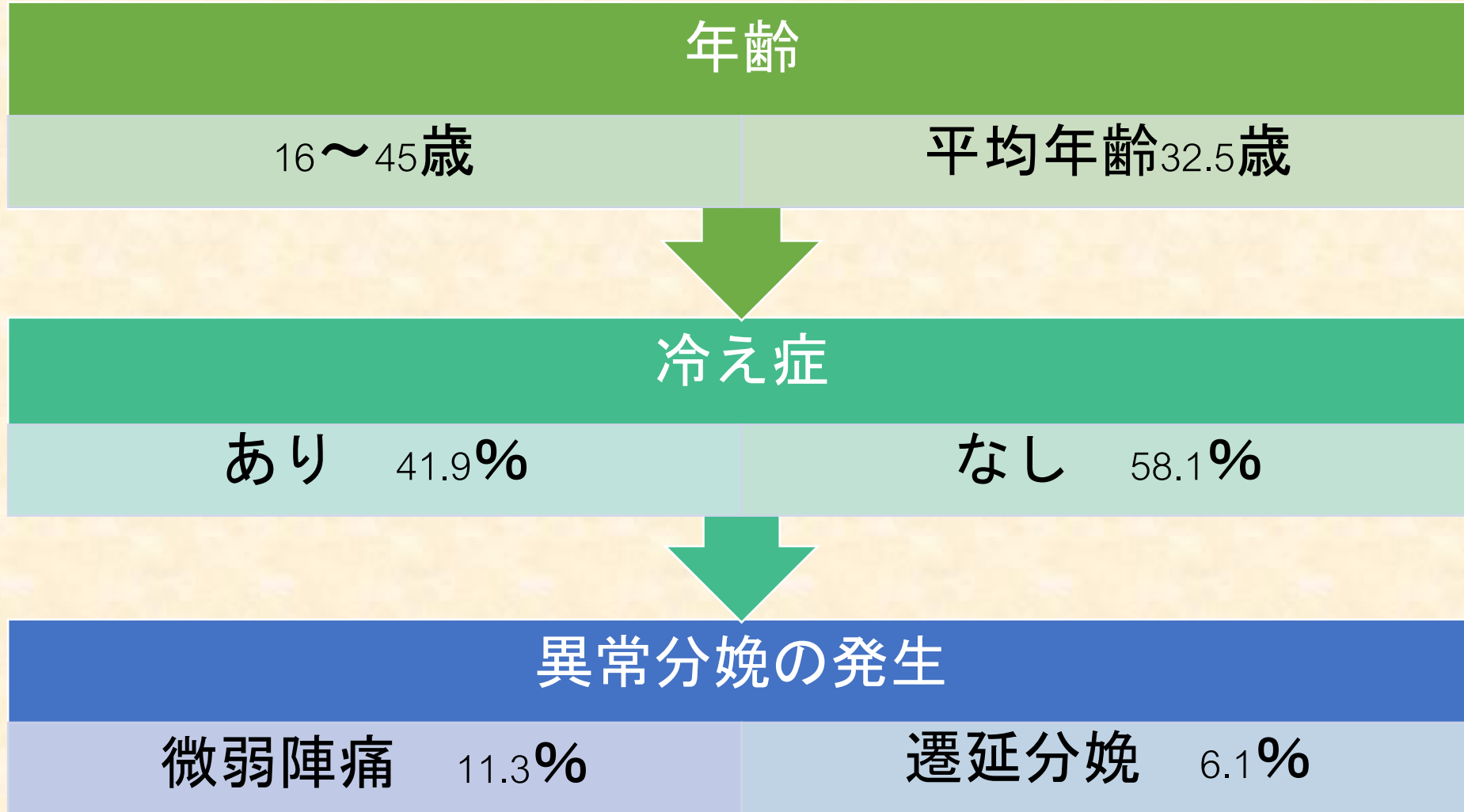
- 冷え症以外の交絡因子の影響を調整できる**傾向スコア**を使用



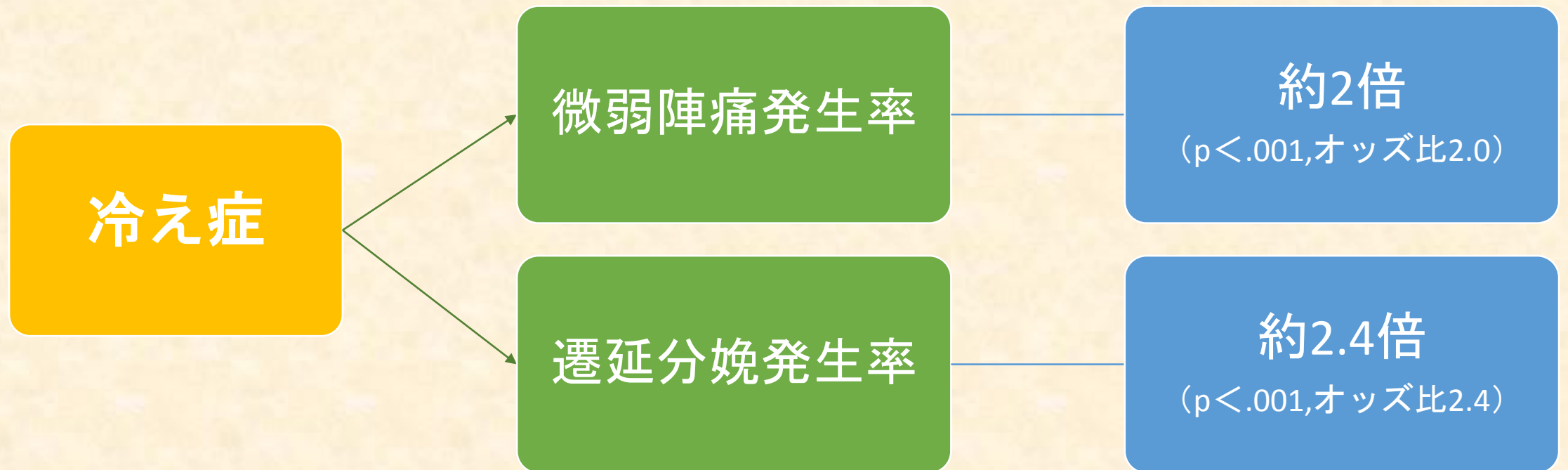
結果・考察



結果・考察



冷え症の有無における微弱陣痛・遷延分娩の割合

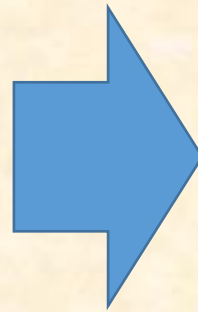


冷え症と微弱陣痛との因果効果の推定

■妊娠後半の冷え症と、微弱陣痛・遷延分娩の発生率との間に

因果効果があることが推定

- ①. 相関の強さ
- ②. 相関の一致性
- ③. 相関関係の特異性
- ④. 時間的な先行性
- ⑤. 量・反応関係の成立
- ⑥. 生物学的妥当性
- ⑦. 先行知見との整合性
- ⑧. 実験による知見
- ⑨. 他の知見との類似性



客観的指標9項目うち、

➤ 4項目で「○」

➤ 5項目は先行研究がないため「？」

冷え症の診断の重要性とこれからの冷え症ケア

本研究の一般化

- 社会全般への周知
- 臨床の現場への周知
- 冷え症改善のためのケアの提唱

冷え症のスクリーニングの実施

- 冷え症の自覚症状の確認
- 手足や腹部の触診

